

12.4 老朽原発うごかすな！関電包囲全国集会 ～超危険な美浜3号、もう廃炉～

●プログラム

13:00 開会

■司会あいさつ / 原発をなくし自然エネルギーを推進する兵庫の会

★関電に向かってコール★

■主催者あいさつ 中野哲演（原子力発電に反対する福井県民会議）

■美浜原発運転差し止め仮処分について 井戸謙一弁護士

■老朽原発とのたたかい

◇美浜原発 / 山本貴美子敦賀市議（原発から10km）

◇高浜原発 / 小浜市民の会

◇東海第二原発 / 東海第二原発運転差し止め訴訟原告団

◇川内原発 / ストップ川内原発！3.11鹿児島実行委員会

◇老朽原発40年廃炉訴訟市民の会

■「老朽原発うごかすな」幟の贈呈

■全国各地から

■各地からのメッセージ紹介

■原発賠償3訴訟（京都、ひょうご、関西）原告

■関電に向かって、ポテッカーアクション

■カンパのお願い

■関西各地から

◇（滋賀）脱原発をめざす東びわこ市民の会

◇（大阪）原発ゼロの会・大阪

◇（大阪）関電の原発マネー不正還流を告発する会

◇（兵庫）脱原発はりまアクション

◇（奈良）原発ゼロ・被災者支援奈良の集い実行委員会

■労働組合から

◇おおさかユニオンネットワーク

◇フォーラム平和・人権・環境

◇全労連近畿ブロック

■集会決議 採択

■大阪地裁への要請 採択

■デモの説明

★関電に向かってコール★

14:30 閉会 → うつぼ公園に移動 → 15:00 デモのスタート

● 全国で脱原発を闘う仲間からの 連帯メッセージ

応援のメッセージ

北海道 後志（しりべし）原発とエネルギーを考える会 共同代表 藤井 俊宏

12月4日「老朽原発うごかすな！関電包囲 全国集会・超危険な美浜3号、もう廃炉」に
参加された皆様に、北海道後志（しりべし）
から応援のメッセージを送らせていただきま
す。

後志・原発とエネルギーを考える会ではコ
ロナ感染の影響で泊原発再稼働反対・廃炉の
現地集会を3年間中止していました。今年9
月10日・11日の両日ようやく「2022・泊原
発廃炉・核ごみいらない岩内集会」を開催す
ることができました。泊原発が停止してから
10年、今年5月31日に札幌地裁で「防潮堤
の基準が満たされていない等」との理由で、
1～3号機の運転差し止めという画期的な判
決が下されました。北電は規制委員会の信頼
も得られず追い詰められている状況とおもわ
れます。私たちはより一層、泊原発廃炉の声
をあげていきます。また今回から、隣接する
寿都町・神恵内村が高レベル放射性廃棄物処
分場候補文献調査に手を挙げたのを機会に岩
内集会もこの問題を正面から取り組むことにな
りました。文献調査はほぼ終わり概要調査
に進もうとしています。この北海道後志地区
は『原発』と『核のごみ』で揺れています。
両方とも阻止しなければなりません。

岸田政権はあの福島第一原発事故の甚大さ
を顧みることさえせず「原発を重要なベー
スロード電源」と位置づけ原発再稼働や新設に
言及し、挙句の果て新型小型原子炉の研究開
発を進めようとしています。ウクライナへの
ロシア侵略によるザポリジエ原発の占拠、こ
れを基に脅し続けることは原発がエネルギー
を産むものではなく核兵器そのものになる
という事です。地球・人類にとって大きなリ
スクです。

若狭の海は岩内に続いています。かつては
岩内港から敦賀にむけてフェリーが就航して
いました。また水上勉とその子、窪島誠一郎
は岩内の海と若狭の海が似ていると感じ、両
方の地とも原発が立地していることに非常に
憂い「三行の希い（ねがい）」の碑を岩内に建
立しました。

碑文を載せておきます。

互いに原発をこの国から無くすよう頑張り
ましょう！！

三行の希い（ねがい）

「核」を

絵筆で塗りつぶせ

ペンで書きあらためよ

水上 勉

窪島 誠一郎

【碑 裏書き】

われら父子（水上勉・窪島誠一郎）は太平
洋戦争下の混乱期に離別し、戦後三十余年ぶ
りに奇跡の再開を果たした。時に父五十八歳、
子三十五歳。

父水上勉は生前、故郷若狭に群立する原子
力発電所の存在を批判し、子窪島誠一郎は信
州上田に戦没画学生を慰霊する美術館「無言
館」を建設した。

父の代表作「飢餓海峡」の舞台であり、子
の妻紀子が生まれ育った郷里である岩内の丘
に、われら父子は「三行の希い」を刻んだ一
碑を建立するものなり。

建立者 窪島誠一郎

（岩内町岩内岳麓・岩内の海と原発が見える
ところに建立されています。）

核燃料サイクルに^{とど}止めを！

なくそう原発・核燃、あおもりネットワーク 事務局次長 中道 雅史

青森県下北半島の主な核施設の現在を概観します。

1. 六ヶ所・核燃サイクル施設 (株)日本原燃。ウラン濃縮工場、MOX 加工工場、低レベル放射性廃棄物埋蔵施設、高レベル放射性廃棄物一時貯蔵施設)

再処理工場では 7 月 2 日、高レベル放射性廃液を冷却する設備の電源喪失という、考えるだに恐ろしい深刻なトラブルが発生しました。その再処理工場は設工認の審査が遅れに遅れ、9 月に 26 回目の完工延期を決め、年内に完工目標時期を明示するとしています。

高レベル放射性廃棄物一時貯蔵施設。一時保管されている高レベル放射性廃棄物の最初の搬出期限まで残り 22 年。最終処分地のめどはたっており、期限内の搬出は物理的に不可能。

2. 大間原発 (電源開発(株))。世界初のフル MOX 発電のため規制委員会の審査が長期化、安全工事開始を 2 年延期。運転開始も「30 年度を目指す」としています。

3. むつ・使用済核燃料中間貯蔵施設 (リサイクル燃料貯蔵(株))。設工認は終了。使用前検査→保安規定認可→事業開始 (2023 年といわれています)。しかし、最初に搬入予定の柏崎刈羽 (東電) の使用済み核燃料の移動許可は出ていません。なお、電事連の施

設共同利用ー全国の使用済み核燃料がむつ市に持ち込まれるという案は、消えていません。

4. 東通原発。東北電力 1 号機は運転停止で審査中です。東京電力 1 号機は進捗率 10 % で、「3.11」以降、建設工事中断。

11 月 19 日、20 日、西村康稔経済産業相が上記 4 か所を視察しました。その折、8 月の GX (グリーン・トランスフォーメーション) 実行会議を念頭に、ある記者が東通原発東京電力 1 号機への次世代型革新炉の導入可能性を質問しました。西村経産相は「最終的には電力事業者の判断」としつつ一方で、「いずれにしても安全性を向上させる技術を組み込んでいくことを期待したい」と答えています。非常に興味深いと思います。岸田首相が原発政策の大転換などとぶち上げたものだから、国際的には現行世代であるものに若干機能を追加して、「革新的」でもなんでもないものを次世代炉として青森に押し付ける魂胆でしょうか。

次世代原発など噴飯ものです。そして原発運転期間の 60 年超への延長は全くもって言語道断。原発再稼働を許さない闘い、核燃料サイクルに止めを刺す闘いに、全国の仲間の手をとりをもっともって強化させましょう！

女川原発の2024年再稼働を止めよう！

みやぎ脱原発・風の会 舘脇 章宏

東北電力は 11 月 24 日、家庭向け電気料金の規制料金について、平均約 33 % の値上げを国に申請した。樋口社長は「このままでは安定的な燃料調達や電力設備への投資を十分にできなくなる」としているが、その「電力設備」の最たるものが原発だ。社長は一方で 2024 年 2 月の再稼働を狙う女川原発 2 号機の安全対策工事費用を 5700 億円程度とした (これま

では 3400 億円程度と説明)。さらに「特重施設」は 1400 億円と、再稼働工程全体でなんと約 7100 億円もかかるのだ。女川原発を動かせば買う燃料が減らせるため年間 1000 億円程度のコスト低減につながるというが、そのためには 40 年を超える稼働が前提だ。実際社長は、原発の運転期間について「しっかり安全審査を受け、延長できるものは延長してしっかり

使いたい」と延長に意欲を滲ませている。

しかし、東日本大震災の震源に最も近い女川原発はこれまで基準地震動を何度も超過している。先日も廃炉行程にある1号機のクレーンの土台に最大6センチのひび割れが8個見つかった問題で、岩手・宮城の6団体が東北電力と交渉をもった(11月2日)。安全対策工事も耐震がメインで、現在行われている「サブプレッションチェンバーの耐震補強工事」は東北電力自ら「これまでに経験したことのない工事」という難工事で、そのために再稼働の時期が半年以上延びたほどだ。だが、す

べての配管などの設備を補強することはできない。これを強く訴え映画にもなった樋口英明元裁判長の講演を、女川町議会議員らが呼びかけ人となって、12月4日女川現地で開催される。また、11月28日には、石巻市民が原告となり「避難計画の実効性のなさ」を根拠に女川原発の再稼働差止めを求める裁判が結審する。

このように、交渉・裁判・講演会、さらに集会デモや議会での働きかけなど、あらゆる方法で再稼働を止める闘いを、全国の仲間とともに続けていく決意だ。

メッセージと連帯のご挨拶

柏崎刈羽原発絶対反対地元住民有志 代表 近藤 容人・高田 勝広

結集された全ての皆さん、全国で闘う住民の皆さん、私達は、新潟県刈羽村と柏崎市の住民です。

ロシア・ウクライナ戦争では、戦時の原発が極めて危険な状態になると明確になりました。キーウ近くのチェルノビリ原発、ザポリージャ州の巨大なザポリージャ原発は、攻撃されれば、福島事故(レベル7)以上の世界規模の大惨事となります。

日本近海では、南北朝鮮半島での軍事的緊張関係が沸点近くとなり、毎日ミサイルの発射が行われています。11月3日のJアラートは、全くお粗末とはいえ、新潟では実際に不気味な音が鳴り響きわたり、東電柏崎刈羽原発が標的となっていれば「俺たちは死ぬ、そして新潟県民は全滅だ!」と覚悟しました。

2011年3月11日、M=9.0の巨大地震が福島第一原発を襲撃。そして、歴史上最悪の惨事を引き起こしました。しかし、もはや福島事故など忘れたかのような動きは勘弁なりま

せん。政府、東電、新潟県知事、柏崎市長、刈羽村長などは、世界最大820万kWの原発を再稼働させようとしています。

柏崎刈羽原発では、IDカードの日常的不正使用が発覚して以来、次々と数え切れないほどの、隠蔽、ねつ造、改ざんが行われ、再稼働など本来全く不可能です。

また、避難計画では、大雪や地震時の道路破壊等が完全に抜け落ちており、問題外です。ましてや戦争事態下での、我々の生命など全く考慮されていません。

岸田内閣は、昨年10月のエネルギー基本計画で「原発の新增設やリプレースはしない」と決めましたが、本年8月には次世代原発建設検討、運転期間60年超への延長、規制基準合格済みの原発早期稼働の検討を突然発表しました。わずか1年未満での方針大転換です。

私達は、全国で闘う住民の皆様方と共に闘うことこそ、この難局を切り開いてゆく唯一の希望と信じて前進します。

連帯メッセージ

志賀原発を廃炉に! 訴訟原告団 団長 北野 進

全国各地から老朽原発の廃炉実現を目指し関電本店前にお集まりの皆さんへ、「志賀原発を廃炉に! 訴訟原告団」から連帯のメッセー

ジを送らせていただきます。

志賀廃炉を目指す私たちのたたかいは、憲法が保障する人格権、環境権を根拠に、活断

層問題を中心に志賀原発の危険性を訴え、運転差止めを求める金沢地裁での訴訟（金沢訴訟）と、会社法 360 条を根拠に、北陸電力の取締役が志賀再稼働で会社に回復不可能な損害を生じさせるおそれがあるとして、株主が取締役の再稼働に向けた行為の差止めを求める富山地裁での訴訟（富山訴訟）を 2 本柱とし、法廷内外で様々な運動を展開しています。

金沢訴訟は提訴から 10 年、38 回の口頭弁論を重ねていますが、裁判所が最大の争点とする「敷地内断層の活動性」が規制委の審査中で、「規制委の判断に従う」との姿勢に終始しています。許しがたい司法の責任放棄ですが、残念ながら訴訟は膠着状態です。

一方、提訴から 3 年半、11 回の口頭弁論を重ねた富山訴訟では、再稼働の判断にあたって取締役に求められる善良な管理者（善管）注意義務や、回復不可能な損害の範囲の解釈などを巡り、原告弁護団が被告弁護団や裁判

所と毎回、激しい議論を交わしています。

志賀 2 号の適合性審査は申請からすでに 8 年、いまだ敷地内断層の審査という入り口段階にあります。しかし審査の加速を掲げる岸田政権の動きもあり予断を許しません。私たちは勝訴を確信しつつも、判決前に再稼働への動きが進む事態も警戒し、原子力防災や安全協定の問題にも力を注いでいます。11 月 23 日に行われた原子力防災訓練では監視行動や住民アンケートを実施し、原子力防災は住民も地域も守らないことを明らかにし、地域からの再稼働阻止の取り組みも進めています。

まだまだ力不足で、やれてないこともたくさんある運動ですが、関西の皆さんの力強く、創意工夫に満ちたたたかいは、志賀原発の廃炉を目指す私たちにたくさんの刺激を与えてくれています。原発のない社会の実現に向け、共に頑張りましょう！

12・4「老朽原発うごかすな！関電包囲全国集会」への 連帯メッセージ

さよなら原発・ぎふ 代表 伊藤 久司

私たちは、2011 年 6 月から、3 ヶ月に一度、集会とパレードを続けている「さよなら原発・ぎふ」です。この 12 月 11 日には、12・4「老朽原発うごかすな！関電包囲全国集会」への連帯行動と位置づけて、45 回目の「さよなら原発パレード in ぎふ」を行います。

岐阜県は、もし若狭の原発に大事故があれば、大変な汚染に曝される「被害地元」です。2012 年 3 月に、私たちが美浜原発のすぐ前から 1000 個の風船を飛ばした実験では、拾われた 100 個の風船のうち 84 個は岐阜県内でした。同年 9 月に岐阜県が公表した「敦賀原発事故想定時の放射性物質拡散シミュレーション結果」でも、最悪の場合、大垣市の中心部では 110mSv/年、県庁所在地・岐阜市とその周辺住民の過半数が 20mSv ~ 100mSv/年という汚染に曝されるという衝撃的な数値が出ています。岐阜県は、このシミュレーション結

果を受けて、おおむね 50mSv/年以上となる地域の住民約 9 万 3000 人についての大きな避難計画を示しています。しかし避難計画実施の主体となるべき基礎自治体、特に 9 万人以上が対象となる大垣市は具体的な避難計画を策定していません。「できない」のです。

行政は、UPZ 内の 400 人余りの住民以外には、原発一原子力災害について周知させようとしていません。岐阜県は関西電力管内ではないこともあって原発に関する報道は乏しく、なかなか一般市民の話題にはなりません。それでも街頭で私たちが問題を伝える行動をしたとき、高校生などが「自分たちにとっても重大な問題だ」と反応してくれたりします。私たちは、少しでも多くの人に、問題を知らせるために、今後も努力していきます。

一刻も早く原発のない明日を実現できるよう、ともに頑張りましょう。

重大事故が起こる前に、老朽原発は廃炉にする以外にない！

高浜町 東山 幸弘

原発が出来始めた 1970 年代、40 年も 50 年も稼働すると誰が思っただろうか。

原発設計者さえもせいぜい 30 年と考えていたのではないだろうか。

原発プラントも半分は火力発電所と同じである。最初の数年で初期故障が収まり、設計寿命の 30 年が近づく頃には、寿命劣化による故障が多発してくる。

関電・若狭の原発トラブル(人災を含む)が公表されただけでも 20 年度 12 件、21 年度 13 件、今年 22 年 10 月までに 11 件と多発している。部品・機器の経年劣化による故障もあるが、何よりも管理体制の劣化は目を覆うものがある。美浜 3、高浜 4 は、定期点検が終わり、いざ起動という時トラブルが発生している。

その中でも、高浜原発 3 号 4 号は二次冷却水系の配管腐食が 30 年を超える頃より顕著に現れ、蒸気発生器に溜まる配管の鉄錆が凄まじい。13 ヶ月 1 サイクルの運転期間で 2 トン 3 トンである。この蒸気発生器伝熱細管の減肉損傷について、関電は鉄錆スケールの硬化し

たものが原因とし、規制委もあまり問題にしていない。が、1 万本もの細管一本でも損傷から破断となれば放射能を含んだ一次冷却水が二次側に噴出して、原子炉の空焚き・核燃料溶融メルトダウンと重大事故につながりかねない。

40 年超の老朽原発再稼働にあたって、規制委員会の新基準に合格する様に取り替えられる全ての機器・部品は取り替え、新品同様と関電は豪語するが、一番重要な原子炉压力容器は取り替えていない。古い可燃性の電気ケーブルも取り替えないで、防火シートで覆っただけ。バルブや制御機器など全て取り替えていない。膨大な長さになる二次系冷却配管は取り替えていない。

3、4 年停止していた高浜 3、4 号(運転開始 37 年)でこれである。10 年以上停止していた美浜 3(同 45 年)と来年起動予定の高浜 1、2(同 47 年)はどの様な状況になるのだろうか。考えるだけで寒気がする。重大事故が起こる前に、老朽原発は廃炉にする以外にない。

メッセージ

神戸市議員 高橋 ひでのり

老朽原発動かすな！ 12.4 関電包囲全国集会の成功を祈念します。

3.11 後に定着した「脱原発」の民意。それをないがしろにする岸田政権のエネルギー政

策は認められません。老朽原発の危険性を多くの市民に明らかにし、最長 60 年への運転期間延長を阻止しましょう。

集会参加のみなさんへ

神戸市議員 (新社会党)、つなぐ議員団幹事長 あわはら富夫

集会に参加できず申し訳ありません。来春の神戸市会選挙の準備の取り組みと重なりました。

福島原発事故に象徴されるように現在科学で原発を制御することは不可能です。

政府と電力会社は CO₂ ゼロを逆手に取って原発の必要性を強調しています。特に岸田政権になって、「原発の新増設や建て替えは想定しない」という姿勢を打ち捨て、新規制基準審査に合格している原発 17 基のうち最大 9 基

を今冬に、残る 8 基を来年以降早期に稼働とする方針を打ち出しました。

また、関電も、老朽原発・美浜 3 号機（運転開始後 45 年超）の稼働を 8 月 30 日に強行しました。この原発は、昨年再稼働以降に、深刻なトラブルを繰り返しています。

そして、運転開始後 48 年、47 年になろう

とする老朽原発・高浜 1、2 号機も再稼働しようとしています。危険な老朽原発の再稼働など、もってのほかです。

美浜 3 号機、高浜 1、2 号機の廃炉を勝ち取り、それを突破口に、原発のない社会を実現しましょう！

老朽原発を絶対廃炉にしよう！

さよなら島根原発ネットワーク 事務局 芦原 康江

岸田政権が GX 実行会議の場で、最長 60 年としていた運転期間の上限を撤廃し、再稼働を政府が前面に立って進める、と豪語しました。また、新增設やリプレースを進め、次世代型原子炉の開発を行うなど、福島原発事故など忘れたかのような原発推進方針を掲げました。この再稼働の中には、もちろん島根原発 2 号機が含まれており、私達は怒りで身を震わせています。

40 年を限度とした再稼働ですら、島根原発 2 号機においては「地震」や「火山噴火」などの自然災害を過小評価しており、事故発生確率を押さえてはいません。武力攻撃のリスクも防ぐ手立てがなく、福島原発事故の新たな知見すら対策に反映されない状態もあり、住民にとって、再稼働など到底容認することなどできないのです。まして、60 年を超える長期運転では、圧力容器などの交換すらできず、ますます事故を起こす危険性が高くなるのは常識ではありませんか。

各地の老朽原発が稼働する周辺地域では、

多くの住民が暮らし続けています。私たちの町の島根原発でも、事故時には 30 km 圏内の約 46 万人の人々が被ばくを強いられ、大混乱の中を県外などへの避難を強いられます。それでも島根県知事は、国側が自治体や主権者である住民の意思まで無視し、「有無を言わず再稼働を進める」という強い姿勢を示したことを受け入れてしまい、「苦渋の決断だ」と再稼働を容認しました。その過程は、GX 会議で示した「再稼働を政府が前面に立って進める」方針をあたかも事前に示したかのようでした。

これは住民の命や暮らしを顧みない原発推進の方針であり、「人を犠牲にする政治」そのものです。このような島根原発再稼働について、島根の住民はもちろんのこと、鳥取県の住民、そして広島・岡山・山口などの多くの住民も怒り、再稼働中止を求め続けています。

全国の皆様、これからも共に全ての老朽原発再稼働を止めていきましょう。

連帯メッセージ

上関原発を建てさせない山口県民連絡会

12・4「老朽原発うごかすな！関電包囲全国集会」にお集まりの皆様、ご苦労様です。

岸田政権は、「エネルギー基本計画」さえも無視して、原発の新増設への道を開こうとしています。私たちは、これを許すわけにはいきません。

本年 10 月 25 日中国電力（以下中電）は、

上関原発予定地田ノ浦の公有水面埋立免許の延長申請を山口県に行いました。祝島漁民は今も中電の漁業補償金を受領してないし、埋め立てやボーリング調査に同意もしていません。にもかかわらず中電は、祝島漁民の財産権である漁業権を無視し、「上関原発を建てさせない祝島島民の会」に対して、海上ボーリ

ング調査を妨害しないよう求める民事訴訟まで起こしました。

本末転倒です。

これらに抗議し、11月15日に地元を含む5団体が、11月24日に私たちが県に申し入れを行いました。公有水面埋立免許の延長申請を不許可にすることと共に、ボーリング調査での「一般海域の占用許可」申請が出されても、不許可にするよう強く訴えました。そして、私たちは県民の宝というべき「奇跡の海」と呼ばれる田ノ浦を含む上関の自然を様々な取り組みによって守り抜く決意です。

ウクライナ戦争を見れば、原発は攻撃対象となることが明らかです。そもそも原発は事

故や戦争が無くとも、稼働する限り必ず労働者が被曝します。高レベル放射性廃棄物は未来の人類の命をも脅かします。

原発はいりません！

原発の再稼働と原発の新增設を止めれば、必ず原発ゼロの世界を実現できます。

私たちも、皆さま方のアメンバーデモをはじめとする創意工夫した闘いに学び、粘り強く闘います！

コロナ禍のため県内各地で分散して取り組んでいた3月の反原発集会は来年3月18日、久しぶりに山口市維新公園において大集会として行います。

共に闘いましょう！

老朽原発動かすな！ 関電包囲全国集会に連帯して！

伊方から原発をなくす会 近藤 享子

8月、岸田首相は福島第一原発の事故収束ができていない中、経産省のGX会議で、「原発稼働延長の法改正を検討」。厚労省、文科省ではなく、Gは環境保全なのに、「原発は金なり」で原子カムラの利益となり、経産相で推進！命より金ときた！

伊方原発反対の闘いでは、住民、警察官の自殺者や逮捕者もありました。四電・伊方町は住民の家族構成調査、思想調査まで行った。伊方原発建設で住民の血が流れた伊方町は、現在愛媛県で一番人口減少が激しい。高門町長は「人口増は四国電力と考える」と言い、もう住民の力では街の再生、人口増加の政策はできないという暗い現実があります。

現在伊方原発3号炉（12月で28年）は燃

料棒にピンホールを起こしたまま稼働中です。（1・2号炉は廃炉）

国が何を言おうと動かすか動かさないか電力会社が決めることです。責任の取れないことはするべきではない。

これ以上核のゴミを出させてはいけません。

7月の猛暑の中での「老朽原発動かすな！ 現地行動」に参加して、美浜原発前面海域で楽しむ海水浴客を見て、「放射能を飲んでないだろうか」と思い、危険な老朽原発の廃炉の思いを強くしました。

全ての原発廃炉に向けて、老朽原発動かすな！の皆様と連帯し闘います。

原発を止める！私たちは止まらない！

関電包囲全国集会に結集された皆さん！

ストップ川内原発！3.11かごしま実行委員会

「ストップ川内原発！3.11鹿児島集会実行委員会」から連帯メッセージをお送りします。

まず、極めて残念な報告を強い憤りを持ってしなければなりません。九電が10月12日、川内原発1・2号の20年運転延長を規制委に申請し、11月15日には1回目の審査会合が

始まったのです。1号の寿命は24年7月まで、2号は25年11月までですが、それを20年延ばそうというのです。

原発の寿命を定めた「40年ルール」ができたとき、原発担当大臣は「運転延長は例外中の例外」と答弁しましたが、これまで延長申

12.4 「老朽原発うごかすな！ 関電包囲全国集会」決議（案）

超危険な老朽原発を廃炉にし、 原発のない明日を実現しよう！

今、岸田政権は、原発の 60 年超え運転を画策するだけでなく、「革新」や「小型」の言葉をもてあそび、人々をだまして、原発の新增設も企てています。また、60 年以上も膨大な研究費を投下してきたにも拘らず、実用化の兆しも見えない高温ガス炉や核融合、破綻が明らかな高速炉を新しいテーマのごとく取り上げて、さらに膨大な予算を投下しようとしています。「原子カムラ」の経済的救済のためであり、福島原発事故の犠牲と教訓を軽んじ、人の命と尊厳を蹂躪するものです。

一方、関電と政府は、運転開始後 48 年、47 年、46 年を超えた老朽原発・高浜 1、2 号機、美浜 3 号機の稼働に躍起です。

このうち、昨年 6 月に再稼働したものの特定重大事故等対処施設の設置が間に合わず、わずか 4 カ月の稼働の後に停止していた美浜 3 号機については、8 月 10 日再稼働を目指していましたが、目前の 8 月 1 日、放射性物質を含む水 7 トンが漏洩していることが発覚し、再稼働は延期されました。また、次の再稼働を目論んだ 8 月 23 日の直前の 21 日に、「緊急時に、1 次冷却系に注入するほう酸水を蓄えているタンク」の圧力低下が確認され、再稼働はさらに延期され、8 月 30 日になってやっと再稼働に漕ぎつけました。

トラブルによる再稼働延期は、運転開始後 40 年に満たない高浜原発 4 号機でも発生しています。関電は、去る 10 月 21 日、伝

熱管損傷などのトラブル多発の高浜 4 号機の再稼働を画策しましたが、私たちの予測通り (??)、さらにトラブルを発生させ、再稼働は 11 月 4 日にずれ込みました。トラブルは『1 次冷却系の加圧器に設置されている「圧力逃し弁」の異常』です。

これらの原発過酷事故を招きかねない極めて深刻なトラブルの原因は、あきれ返るほど稚拙なミスです。下請け任せの上、責任感と科学的常識の乏しい、技術者、作業員、監督者などが原発を動かそうとしていることを示します。原発を動かそうとする体制自体も老朽化しているのです。

その関電は、老朽原発・高浜 1、2 号機の来年 6 月、7 月稼働も画策しています。許してはなりません。

今、電気は足りています(余っています)。一時的な電力需給のひっ迫はあっても、節電によって乗り越えることができます。したがって、放射線被ばくを強い、過酷事故で人々に塗炭の苦難を与えかねず、何万年もの未来にまで負の遺産・使用済み核燃料を残す原発を稼働させる必要は全くありません！

本日、「老朽原発うごかすな！」を合言葉に関電を包囲した私たちは、老朽原発の完全廃炉を勝ち取り、それを突破口に、原発のない、人の命と尊厳が大切にされる社会の実現に向けて邁進することを決議します。

2022年12月4日

「老朽原発うごかすな！ 関電包囲全国集会」
参加者一同

